

平成28年4月22日

北海道の歴史・文化を紹介します

～観光パンフレット「北海道の歴史文化を巡る旅」を作成～

北海道における独自性のある歴史・文化を観光資源として活用し、インバウンド観光(※)の需要拡大を図るため、国内外に紹介する観光パンフレット「北海道の歴史文化を巡る旅」を作成しました。

北海道の歴史・文化の魅力在海外を含め、道内外にお伝えし、北海道の観光振興に活用いただくため、日本語、英語の2ヶ国語版を北海道開発局HPに掲載いたします。

※インバウンド観光：訪日外国人旅行

北海道の歴史・文化には他地域にみられない独自の特徴があり、観光資源としての特殊性を持っています。

そこで北海道開発局では昨年度、北海道における独自性のある歴史・文化を観光資源として活用するため、学識経験者や関係機関からなる「歴史・文化観光に関する検討委員会」（座長：石森秀三北海道博物館長）を設置し、いただいたご意見等を参考に観光パンフレット「北海道の歴史文化を巡る旅」を作成いたしました。

この「北海道の歴史文化を巡る旅」は、北海道の歴史・文化を縄文文化から北海道開拓まで1冊に凝縮し、「北の古代人」、「アイヌの文化」、「道南の和人文化」、「北海道開拓」、「北の産業遺産」という5つのテーマごとに、その魅力や関連施設を紹介する内容となっております。

このパンフレットについては、今後、印刷・製本の上、北海道を訪れる旅行者はもちろんのこと、インバウンド観光を受け入れる自治体にも広く活用されるように努めてまいります。

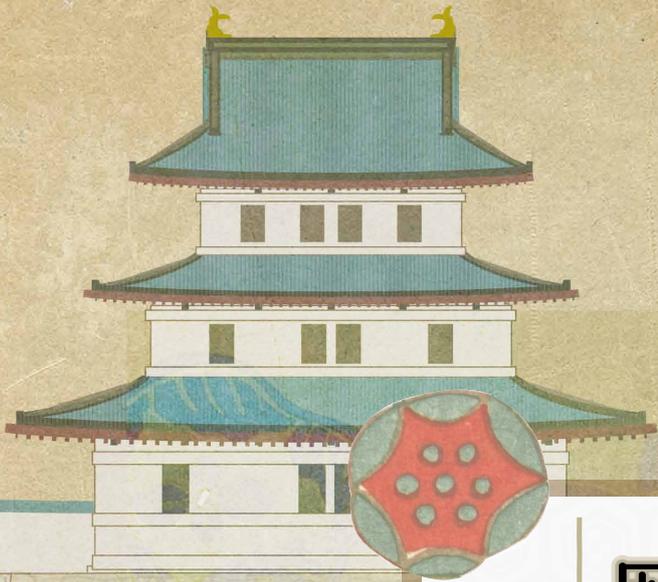
各パンフレットは、以下のホームページからダウンロードできます。

北海道開発局HP http://www.hkd.mlit.go.jp/kanribu/chosei/kankou_11.html

【問合せ先】 国土交通省 北海道開発局 電話（代表）011-709-2311

開発監理部 開発連携推進課 開発企画官 本田 肇（内線 5433）

開発監理部 開発連携推進課 開発専門官 横田 弘史（内線 5441）



北海道の
歴史文化を
巡る旅



A Journey into
the History and Culture
of Hokkaido



北海道の歴史文化を巡る旅
A Journey into the History and Culture of Hokkaido

北海道の歴史

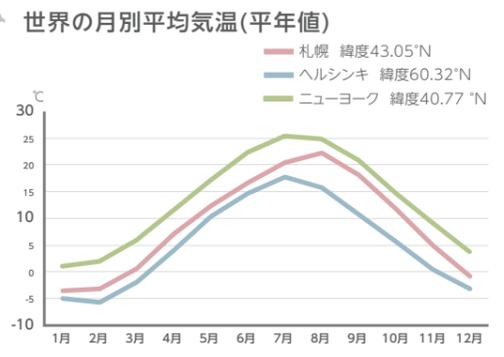
北海道は本州とは大きく異なる歴史を刻んできました。早くに農耕文化を取り入れた本州と違い、北海道ではおよそ2千年前までは、狩猟・漁撈を中心とする縄文文化が、その後も形を変えながらアイヌ文化に引き継がれていきました。蝦夷地(現在の北海道)にはアイヌ民族が先住していましたが、その後、和人が移住してきます。そして今から150年前、日本の近代化とともに、北海道は明治新政府により開拓が始まりました。北海道の開拓には、欧米の国々から多くの技術を導入しました。その歴史的な資産が今日の北海道に今なお残り、私たちの生活に息づいています。



◆ 北海道の歴史・文化を知るならココ
「北海道歴史・文化ポータルサイト AKARENGA」
<http://www.akarenga-h.jp/en/> [英]



北海道は四方を太平洋、日本海、オホーツク海に囲まれ、雄大かつ変化に富む山岳、広大な湿原、美しい景観の天然湖沼などにより形成されています。気候は冷涼低湿で、梅雨や台風の影響をあまり受けません。日本では北端に当たりますが、世界ではアメリカ、ヨーロッパの主要都市とほぼ同位置にあります。
※道庁HP「北海道の概要」より抜粋

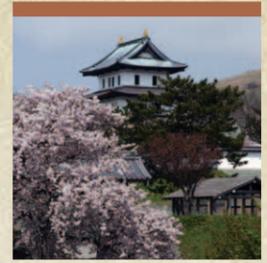


出典:国土交通省気象庁「各種データ・資料」
<http://www.jma.go.jp/jma/index.html>

自然を敬い祈り続けた 北の古代人 3
日本の心のルーツ

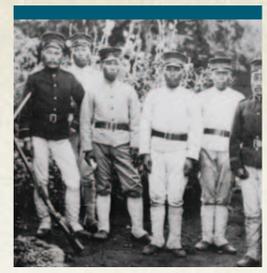


先住民族 アイヌの文化 5
縄文からつながるアイヌの思想と文化

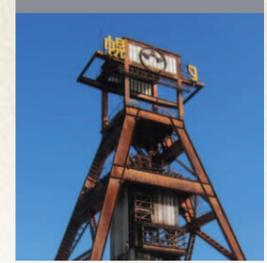


中・近世 道南の和入文化 7
日本を支えた“蝦夷”地

フレンドシップによる 北海道開拓 9
お雇い外国人技術者が北海道に残したもの



Column 1 屯田兵 11
Column 2 農村景観 12



北の産業遺産 13
北海道130年の奇跡

北海道の歴史をもっと知るならココ

北海道の歴史や自然・文化が集結した「北海道博物館」

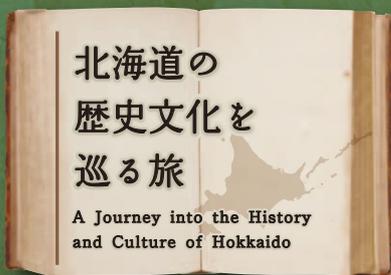


札幌市 北海道博物館
MAPCODE 139 180 060
◆住所/厚別区厚別町小野幌53-2 ◆TEL/011-898-0466
◆URL/<http://www.hm.pref.hokkaido.lg.jp/en/> [英]
※外国語音声ガイドあり。

北海道の自然・歴史・文化を解説する総合博物館。南の本州からやってきたナウマンゾウと、北の大陸からサハリンを通過してやってきたマンモスゾウ。かつて北海道に生息したこれら2種類のゾウの復元全身骨格から展示はスタートする。この2つのゾウと同じように、人も南の本州から、北の大陸から、北海道を行き交った。北海道の120万年前から現代に至る歴史や先住民族アイヌの文化を、実物資料やジオラマなどで示している。化石に触れる、アイヌ語を遊びながら知ることができるなど、参加体験型の展示も豊富。

MAPCODEについて マップコード対応のWebサイトやスマートフォン向けアプリ、カーナビでの目的地の設定にご利用いただけます。
※「マップコード」および「MAPCODE」は(株)デンソーの登録商標です。





自然を敬い祈り続けた 北の古代人



縄文土器 (函館市白尻B遺跡出土)
縄文とは、土器の表面に縄を転がしてつけた縄目文様のこと (写真提供: 函館市教育委員会)



- A 函館市縄文文化交流センター
- B 史跡北黄金貝塚公園・北黄金貝塚情報センター
- C 史跡常呂遺跡・ところ遺跡の森
- D 網走市立郷土博物館分館「モヨロ貝塚館」

日本の心のルーツ

～受け継がれてきた縄文の精神

北海道の縄文文化は、今から15,000～2,000年前まで、1万年余りの長きにわたって、大規模な争いがなく、自然と人間が共生してきた、世界史上稀有な先史時代の文化です。この時代の人々(縄文人)は、農耕ではなく、漁労・狩猟・採集を基盤とした定住生活をおくっていました。この時代の「墓」「貝塚」などから、人や物を埋葬した跡、さまざまな祭祀や儀礼の跡と思われるものが見つっています。狩猟・採集など、命の糧を自然に委ねざるを得なかった縄文人は、自然やあらゆるものに(魂)が宿ると信じて「自然との折り合い」をつけていったと考えられます。このような、縄文人の精神は、アイヌの人々の信仰や、また、日本人にも受け継がれています。

縄文人の心にふれる



垣ノ島遺跡出土土足形付土版
(写真提供: 函館市教育委員会)



垣ノ島遺跡出土漆塗り注口土器
(写真提供: 函館市教育委員会)

亡き子をしのぶ足形

約6,500年前の遺跡から、幼児の足形をつけた土版が見ついている。子供の形見として作られ、親の死亡時にいっしょに埋葬されたと考えられている。

現代に通じる漆工芸の技術

漆工芸は日本の伝統工芸のひとつであるが、縄文時代には、すでに芸術の域に達する技術となっていた。



国宝 土偶 函館市著保内野遺跡出土
(写真提供: 函館市教育委員会)



北黄金貝塚の復元された貝塚
(写真提供: 伊達市教育委員会)

縄文人の芸術性 国宝「土偶」

土偶は、粘土で作られた素焼きの小像であり、多くは女性を表している。国宝に指定された土偶は、約3,500年前の墓から出土したもので、中が空洞の「中空土偶」に分類される。高さ41.5cm、幅20.1cm、縄文時代における土偶造形の頂点と評価されている。愛称「カックウ」で親しまれている。

〈魂〉をあの世へ送る 「送り場」

紀元前5,000年～3,500年頃の貝塚からは、貝類や魚骨、海獣類の骨のほか、埋葬人骨を含む墓やシカの頭骨を配置した動物儀礼の痕跡が確認されている。この貝塚は、生き物やものの〈魂〉をあの世へ送る「送り場」と考えられる。

縄文体験プログラム

勾玉づくりなど、30分～1時間程度のプログラムが用意されている。



- A の函館市縄文文化交流センター、
- B の北黄金貝塚情報センターへ、お問い合わせください。

MAPCODE 744 053 054

A 函館市 函館市縄文文化交流センター

◆住所/白尻町551-1 ◆TEL/0138-25-2030
◆URL/http://www.hjcc.jp/index_e.html (英)

MAPCODE 159 544 019

B 伊達市 史跡北黄金貝塚公園・北黄金貝塚情報センター

◆住所/北黄金町75 ◆TEL/0142-24-2122(4～11月・冬期閉鎖)
◆URL/http://www.city.date.hokkaido.jp/hotnews/detail/00001560.html

縄文の精神が北海道で受け継がれてきた理由



重要文化財元江別1遺跡出土品(続縄文時代)
(写真提供:江別市教育委員会)

POST縄文文化 農耕ではなく狩猟採集生活を継続

今から2,000年前頃になると、水田稲作と鉄器を作る技術をもった弥生文化が西日本から東北地方までひろがった。一方、北海道には弥生文化が広がらず、本州の影響を受けながらも農耕を行わない「続縄文文化」「擦文文化」が、オホーツク海沿岸では「オホーツク文化」が見られるようになる。その後、「オホーツク文化」が融合していった「擦文文化」が、アイヌ文化へと変わっていったと考えられている。



常呂遺跡の復元した竪穴住居
(写真提供:北見市教育委員会)

縄文文化 ～アイヌ文化の遺跡

縄文文化からアイヌ文化までの遺跡が連続と続く、全国有数規模の一大集落遺跡群が常呂遺跡である。1,000年以上前にさかのぼる竪穴住居跡が地面に窪みとなって残っている。擦文文化とオホーツク文化との関係を探る上で重要な遺跡。



火のカムイ

アイヌ文化に引き継がれる 縄文の心

アイヌ民族の信仰では、この世のあらゆるものに〈魂〉が宿っていると考えられた。なかでも、火や水、動物や植物、生活用具、天候など人間の力が及ばないものを〈カムイ〉として敬った。このような、縄文の人々に通じる精神性が、アイヌの人々によって、今に受け継がれてきたと考えられる。

MAPCODE 525 732 611

C 北見市 史跡常呂遺跡・ところ遺跡の森

◆住所/常呂町字栄浦371番地 ◆TEL/0152-54-3393
◆URL/http://www.city.kitami.lg.jp/docs/7209/ 

北からやって来たオホーツク文化

続縄文文化の終わり近くの5世紀頃になると、サハリン(樺太)など北方の文化をもつ人々がオホーツク海沿岸にやって来た。これらの人々(オホーツク人)は、漁労を行い、クジラやアザラシなどの海獣をとる海洋民族といわれている。クマを崇拝する風習などがあり、クマの霊送りに見られるアイヌ文化に影響を及ぼしたと考えられている。



最奇貝塚出土クマ土製品
(写真提供:網走市教育委員会)

1,300年前の 海洋狩猟民の集落跡

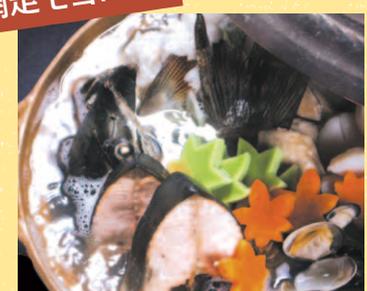
オホーツク海に面するモヨロの地で見つかった集落・貝塚・墓地の跡を復元・展示している。当時の土器、骨製の銚、クマの土製品なども陳列されている。

MAPCODE 305 677 623

D 網走市 網走市立郷土博物館分館「モヨロ貝塚館」

◆住所/北1条東2丁目 ◆TEL/0152-43-2608
◆URL/http://moyoro.jp/publics/index/8/ ※外国語音声ガイド、外国語映像あり。

網走モヨロ鍋



オホーツク土器に見立てた特製鍋でいただく、オホーツク産魚介類のご当地鍋料理。

モヨロ鍋提供

◆URL/http://www.abakanko.jp/food/moyoronabe.html
◆問い合わせ先/網走市観光協会



北の縄文遺跡群

ユネスコ世界遺産の登録をめざす取り組みについての紹介をしている。

◆北海道・北東北の縄文遺跡群の公式サイト
URL/http://jomon-japan.jp/en 

北海道の縄文遺跡をめぐる

北海道内の27市町の縄文遺跡や見学施設を紹介している。

◆北海道縄文のまち連絡会
URL/http://www.jomon-town.org/site/

北海道の 歴史文化を 巡る旅

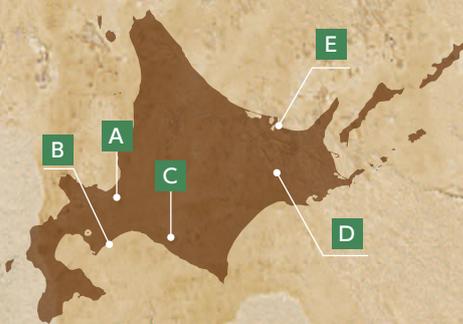
A Journey into the History
and Culture of Hokkaido

先住民族 アイヌの文化



アットゥシ

アイヌの人たちがつくり上げた伝統的な衣服である樹皮衣。(写真提供:財団法人アイヌ文化振興・研究推進機構)



- A 北海道大学植物園・博物館
- B しらおいポロトコタン・アイヌ民族博物館
- C 平取町立二風谷アイヌ文化博物館
- D 阿寒湖アイヌコタン
- E 北海道立北方民族博物館

縄文からつながるアイヌの思想と文化

～自然と共生する文化がここに

自然と共生し、縄文の精神性を受け継ぐアイヌ文化は、和人(本州に暮らしている人々)のものとは大きく異なるものでした。中世アイヌの人々は、大陸や本州と自由に交易を行ない、中国からの絹製の服や本州の漆器などを入手していました。その後、蝦夷地(現在の北海道)に移住した和人が交易権を独占するようになり、和人の政治的、経済的支配が強まってきました。さらに1869年、明治政府は蝦夷地を北海道と改称、アイヌ民族の和人への同化政策をとっていきました。そうした中でも、アイヌの人々は、先住民族としての独自の信仰や生活文化を今日まで守り、継承してきました。



アイヌの精神世界を知る

アイヌ民族は、動物や植物など人間に自然の恵みを与えてくれるもの、火や水、天候など人間の力が及ばないものをさまざまな「カムイ」として敬った。クマなどの霊送り儀式「イオマンテ」は、人間の世界にやって来たカムイを、そのカムイが住む世界(カムイモシリ)に送り返すための大変重要な儀式である。こうした儀式は、道具が古くなって使えなくなった時にも行なわれた。



(写真提供:北海道大学植物園・博物館)

熊送りの映像記録時に撮影されたスチール写真。展示室内で映像を見ることが出来る。

熊送りの記録

北海道大学植物園内の博物館は1877年に開拓使の札幌仮博物館として始まった。園内の北方民族資料室では、主に1880年代と、1930年代に収集されたアイヌ民族を中心とした文化資料を展示している。

MAPCODE 9 521 295

A 札幌市 北海道大学植物園・博物館

- ◆住所/中央区北3条西8丁目 ◆TEL/011-221-0066
- ◆URL/<http://www.hokudai.ac.jp/fsc/bg/>

今に伝わるアイヌ文化の一例

アイヌ古式舞踊

(ユネスコ無形文化遺産)

アイヌの人々の歌や踊りは、動物や植物、大自然のなかにいるたくさんの神々との関わりの中で生まれてきたと考えられており、長い歴史のなかで作られ伝えられてきたもの。



アイヌ古式舞踊
(写真提供:財団法人アイヌ文化振興・研究推進機構)

ムックリ

アイヌ民族の楽器のひとつで、口琴、口琵琶とも呼ばれている。口琴は、ユーラシア大陸とその周辺地域に広く見られる。



ムックリ

アイヌ文様

文様には、さまざまな種類があり、なかでも有名なのは、渦巻き文様と、括弧(かっこ)文様。この二つは、その組み合わせと変化によって無限のバリエーションを生み出す。病気などを防ぐ魔除けの意味もある。



アイヌ文様
(写真提供:北海道遺産協議会)

アイヌ語地名

北海道の地名の約8割はアイヌ語に由来するとされている。アイヌ語地名の多くは、その名から地形や位置づけが分かるものとなっている。

ピリカノカ(国指定名勝)

ピリカノカ(美しい・形)は、アイヌの物語や伝承の場、祈りの場、言語に彩られた優秀な景勝地として、10カ所が指定されている。

◆ピリカノカ紹介サイト

<http://www.dokyo.pref.hokkaido.lg.jp/hk/bnh/pirikanoka.pdf>



名勝ピリカノカ襟裳岬(オンネエシルム)
(写真提供:えりも町教育委員会)


 アイヌ文化にふれる


ポロトコタン


 二風谷アイヌ文化博物館
(写真提供: 二風谷アイヌ文化博物館)

 阿寒湖アイヌシアターイコロ
(写真提供: 阿寒湖アイヌシアター運営協議会)

アイヌの生活・文化を体験する

かつてのアイヌ集落の様子を伝える野外博物館。古式舞踊やムックリ(口琴)などの演奏、手工芸実演を見ることが体験することができる。園内の博物館では衣食住や生活様式などを展示、世界の先住民族との交流拠点にもなっている。

アイヌのものづくり技術

重要有形民俗文化財に指定されているアイヌの民具を見学できる。本地域には北海道唯一の国指定の伝統的工芸品としてアイヌ工芸品の二風谷イタ(盆)、二風谷アツトウシ(樹皮の反物)がある。

アイヌシアターで見学

アイヌコタンでは、阿寒湖アイヌシアターイコロにて、アイヌ古式舞踊・イオマンテの火まつり・人形劇を上演している。アイヌ生活館では、アイヌの生活・文化を学ぶことができる。民芸品店やアイヌ料理店もある。

B	白老町 しらおいポロトコタン・アイヌ民族博物館	MAPCODE 545 194 762
◆住所/若草町2-3-4 ◆TEL/0144-82-3914 ◆URL/http://www.ainu-museum.or.jp/en/ 		

※2020年に白老町にアイヌ文化復興のナショナルセンターとして「民族共生の象徴となる空間」(国立博物館等)の開設を予定。

C	平取町 平取町立二風谷アイヌ文化博物館	MAPCODE 442 799 101
◆住所/二風谷55 ◆TEL/01457-2-2892 ◆URL/http://www.town.biratori.hokkaido.jp/biratori/nibutani/ 		

D	釧路市 阿寒湖アイヌコタン	MAPCODE 739 341 639
◆住所/阿寒町阿寒湖温泉4-7-84 ◆TEL/0154-67-2727 ◆URL/http://www.akanainu.jp/		

北方民族の知恵や技術を知る



北海道立北方民族博物館
(写真提供: 北海道立北方民族博物館)

ユーラシア大陸に住む人々からも影響を受けてきた北海道。アイヌ文化やオホーツク文化のほか、北欧、ロシア沿海州シベリア、アラスカなど世界の北方民族文化を衣食住などのテーマ別に紹介している。

E	北海道立北方民族博物館
◆住所/網走市字潮見309-1	
◆TEL/0152-45-3888	
◆URL/http://hoppohm.org/english/index.htm 	
※外国語音声ガイドあり。	

MAPCODE 305 584 311

北海道のアイヌ文化を知る施設情報等

公益財団法人アイヌ文化振興・研究推進機構サイト

◆URL /http://www.frpac.or.jp/english/index.html 

アイヌの歴史や文化(言葉や芸能、信仰など)、またアイヌ文化の現在について詳しく解説しているサイト。パソコンに音響機器(ソフト)が導入されていれば、アイヌ民族の楽器「ムックリ」の演奏を聴くこともできる。



北海道博物館(2ページを参照)

◆URL/http://www.hm.pref.hokkaido.lg.jp/en/ 

函館市北方民族資料館

◆URL/http://www.hakodate.travel/en/things-to-do/museum/hakodate-city-museum-of-northern-peoples/ 

札幌市アイヌ文化交流センター(サップロピリカコタン)

◆URL/http://www.city.sapporo.jp/shimin/pirka-kotan/en/ 

苫小牧市美術博物館

◆URL/http://www.city.tomakomai.hokkaido.jp/hakubutsukan/ 

帯広百年記念館

◆URL/http://www.octv.ne.jp/~hyakunen/english.html 

釧路市立博物館

◆URL/http://www.city.kushiro.lg.jp/museum/annnai/english.html 

幕別町蝦夷文化考古館

◆URL/http://www.makubetsu.jp/kankobussankyokai/english/play/224.html 

のぼりべつクマ牧場・ユーカラの里

◆URL/http://www.bearpark.jp/sisetsu/index.htm#F 



イランカラッペテ

「こんにちは」からはじめよう。

イランカラッペテは、
アイヌの人たちのあいさつ、こんにちは。
「あなたの心にそっと触れさせていただけます」
という温かい思いが込められた、
これからの北海道のおもてなしの合言葉です。

北海道の 歴史文化を 巡る旅

A Journey into the History
and Culture of Hokkaido

中・近世 道南の和人数文化



復元された北前船 (写真提供: 函館市教育委員会)
海運商・高田屋嘉兵衛の北前船「辰悦丸」を模して建造
された。写真は1986年に江差に寄港したときのもの。

日本を支えた“蝦夷”地 ～海を行き交った人、もの、文化

14世紀頃から道南地域へ進出してきた和人は、現在の上ノ国町・北斗市・松前町・函館市などに館(たて)を築き、勢力を扶植していきます。近世の江戸時代になると、鎖国が行なわれ、蝦夷地(現在の北海道)を支配した松前藩は交易権を独占していきます。18世紀には、ニシン、サケ、コンブなどの海産物の生産が拡大、その積み出し港となった江差、松前、箱館は大きく繁栄しました。なかでも日本海航路の起終点となった江差は「江差の五月は江戸にもない」とうたわれるほどの賑わいでした。北前船で運ばれたニシン粕は、綿花などの肥料として使われ、当時の日本の産業発展に貢献しました。身欠きニシンやコンブは、京都に伝わって和食文化に欠かせないものとなっています。



北前船の航路

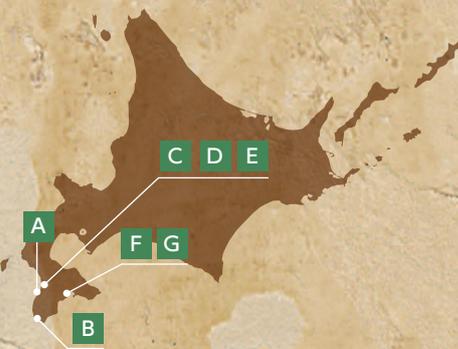
北前船

18世紀後半から19世紀に、大阪から蝦夷地へと日本海沿岸諸港を往来した交易船。蝦夷地からはニシン粕やコンブなどが、本州からは米や塩、酒などが運ばれた。

北前船の航路と
主な寄港地
～近世江戸時代～

海を渡ってきた“和人”の拠点

松前藩の藩主・松前氏の祖は15世紀に蝦夷地に渡ってきた和人である。今の上ノ国町天ノ川周辺に館を築いてから明治維新までの長きにわたり、蝦夷地を支配した。その歴史を知る施設が道南に残っている。



- A 史跡之上の国館跡勝山館跡・勝山館跡ガイダンス施設
- B 史跡松前氏城跡福山城跡・松前城資料館
- C かもめ島
- D いにしえ街道
- E 姥大神宮渡御祭
- F 特別史跡五稜郭跡/箱館奉行所
- G 五稜郭タワー



史跡之上の国館跡勝山館跡
(写真提供: 上ノ国町教育委員会)



史跡松前氏城跡福山城跡
(写真提供: 松前城資料館)

500年前の アイヌと和人が見た景色

松前氏の祖が15世紀後半に築いた館。丘陵を利用した三段構え。当時の勝山館から見た海や景色はいかに? 背後の夷王山墳墓群にはアイヌと和人の墓が並んでいる。

北海道唯一の“お城”

松前藩が建てた日本最北、天守閣をもつ北海道唯一の城郭。お城のある松前公園は北海道で最初に見ごろを迎える桜の名所。

MAPCODE 807 762 602

A 上ノ国町 史跡之上の国館跡勝山館跡・勝山館跡ガイダンス施設

◆住所/ 勝山427 ◆TEL/ 0139-55-2400
◆URL/ <http://www.town.kaminokuni.lg.jp/hotnews/category/131.html>

MAPCODE 862 058 253

B 松前町 史跡松前氏城跡福山城跡・松前城資料館

◆住所/ 松城144 ◆TEL/ 0139-42-2216
◆URL/ <http://www.asobube.com/database.cgi?dbnum=8&dbkonum=0>



江差の五月は江戸にもない

春の到来を告げる魚、ニシン。おびただしい数のニシンとそのニシンを買い付けに集まる北前船で江差はふくれあがった。江差はその賑わいの名残を今にとどめている。



かもめ島
(写真提供:江差町教育委員会)

天然の良港を抱くかもめ島

海拔20m、周囲2.6kmのかもめ島は、かつてニシン漁や北前船交易の舞台となり、江差の繁栄の源だった。今は、檜山道立自然公園の特別区域に指定される美しい小島。

MAPCODE 1108 104 671

C 江差町 かもめ島

- ◆TEL/0139-52-6716 (江差町追分観光課観光係)
- ◆URL/http://www.hokkaido-esashi.jp/modules/sightseeing/content002.html [\[英\]](#)



いにしえ街道
(写真提供:江差町教育委員会)

蝦夷地にも江戸があった!

ニシン漁と交易で活気づいていた昔の江差を再現した「いにしえ街道」。北前船の回船屋敷の重要文化財旧中村家住宅、横山家など、貴重な建物が並ぶ。

MAPCODE 482 390 865

D 江差町 いにしえ街道

- ◆TEL/0139-52-6716(江差町追分観光課観光係)
- ◆URL/http://www.hokkaido-esashi.jp/modules/sightseeing/content008.html [\[英\]](#)



姥神大神宮渡御祭
(写真提供:江差町教育委員会)

北海道最古の伝統祭り 姥神大神宮渡御祭

約370年前から続く豊作・豊漁・無病息災を祈る夏の大祭。毎年8月9日～11日の3日間、3基の神輿と伝統の豪華な装飾を施された山車13台が、それぞれ異なる祇園囃子によって町内を練り歩く。

MAPCODE 482 390 613

E 江差町 姥神大神宮渡御祭

- ◆TEL/0139-52-6716 (江差町追分観光課観光係)
- ◆URL/http://www.hokkaido-esashi.jp/modules/sightseeing/content0028.html [\[英\]](#)

唄い継がれる江差追分

今や世界に広がった郷土芸能「江差追分」を間近に聞くことができる。歌唱体験も可能。江差山車会館では豪華な装飾が施された姥神大神宮渡御祭の山車を常設展示。

江差追分会館・江差山車会館

- ◆住所/檜山郡江差町字中歌町193-3
- ◆TEL/0139-52-0920
- ◆URL/http://esashi-oiwake.com/

MAPCODE 482 390 859



郷土芸能「江差追分」

江差名物にしんそばを味わう

にしんの日

にしんそばは温かいそばの上に甘辛く煮た身欠きニシン(干したニシン)を載せたそばで、ニシン漁と北前船で栄えた江差の名物料理。江差町では毎月24日をにしんの日としている。

江差観光コンベンション協会

- ◆URL/http://www.esashi-kankoukyoukai.com/nishin_no_hi/



にしんそば



サムライたちの最後の戦い

1854年の箱館開港に伴い、北辺防備、蝦夷地統治を目的に築造された五稜郭。明治新政府軍と旧幕府軍による箱館戦争の舞台となった。



特別史跡五稜郭跡
(写真提供:函館市教育委員会)

ラストサムライ戦いの跡

1864年に完成した日本初の洋式城郭。北辺防備の要として築造され、郭内には箱館奉行所が新築・移転された。ヨーロッパの築城様式を取り入れた星形で知られる。箱館戦争で旧幕府軍の拠点となった。現在の箱館奉行所は2010年に復元したもの。

MAPCODE 86 166 307

F 函館市 特別史跡五稜郭跡

- ◆住所/五稜郭町・本通1丁目 ◆TEL/0138-31-5505
- ◆URL/http://www.city.hakodate.hokkaido.jp/docs/2014011601161/



箱館奉行所
(写真提供:函館市教育委員会)

F 函館市 箱館奉行所

- ◆住所/五稜郭町44-3 ◆TEL/0138-51-2864
- ◆URL/http://www.hakodate-bugyosho.jp/en/index.html [\[英\]](#) ※英語ガイド、外国語音声ガイドあり。



五稜郭タワー

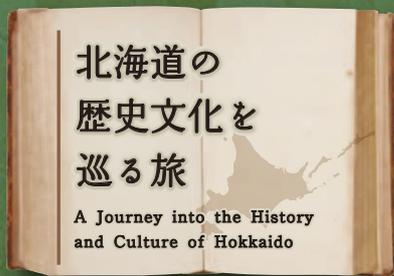
ランドマークから星形を望む

展望台からは函館山や津軽海峡、眼下に五稜郭の星形がきれいに見える。展望台の展示スペースではペリー来航や箱館戦争などの歴史が学べる。

MAPCODE 86 165 057

G 函館市 五稜郭タワー

- ◆住所/五稜郭町43-9 ◆TEL/0138-51-4785
- ◆URL/http://www.goryokaku-tower.co.jp/html/index/en.html [\[英\]](#)



フレンドシップによる 北海道開拓



旧開拓使札幌本庁舎

開拓の拠点は現在の北海道庁赤れんが庁舎の北側に建築された



- A 開拓使通・北海道庁赤れんが庁舎
- B サッポロファクトリー(旧開拓使麦酒醸造所跡)
- C 大通公園
- D 重要文化財札幌農学校第二農場(モテルバーン)
- E 重要文化財旧札幌農学校演武場(時計台)
- F 史跡旧島松駅通所
- G エドウィン・ダン記念館

お雇い外国人技術者が 北海道に残したもの ～日本人とともに開拓の夢を追い求めた アメリカ人パイオニアたち

明治維新後、日本政府は「蝦夷地」を「北海道」と改名、開拓使を設置しました。開拓次官黒田清隆(後に長官)は、その範をアメリカ合衆国に求め、農務局長ケブロンをはじめとする農業、土木、鉱業等のアメリカ人技術者を招聘し、その指導によって北海道の開発が始まりました。彼らは、アメリカ流のフロンティア精神のもと、北海道開発に夢と情熱を捧げ、短期間ではありましたが、多くの成果を残して日本を去っていきました。このような日本とアメリカとの関係は、当時のアジアにおける列強諸国の支配的構造とは異なり、学者や技術者を中心とした日米両国民の対等なフレンドシップによるものだったことが一つの特徴でもありました。その結果、北海道に移植された西洋式の先進農業技術や開拓思想が、その後の北海道の産業や生活文化に色濃く反映されることになりました。

開拓使の主なお雇いアメリカ人技術者



ケブロン(Horace Capron)

アメリカ農務局長から北海道の開拓使顧問として来日、北海道開発全般をアドバイスした。



ケブロンとその一行 1871年頃
左から二人目がケブロン
(写真提供:北海道大学附属図書館)

クラーク(William S. Clark)

札幌農学校教師として1年間教鞭をとる。学生に残した「Boys be ambitious!」は有名。

ダン(Edwin Dun)

獣医師で、農業・牧畜技術を指導。北海道の気候風土に合う西洋式農法を北海道に定着させた。

ライマン(Benjamin S. Lyman)

地質鉱山学者、日本で最初の地質図でもある「日本蝦夷地質要略之図」を作成するとともに、幌内で石炭を発見した。

*開拓使が雇った外国人は78人、その中でもアメリカ人は48人と最も多かった(全体の70%)。



開拓時代の 札幌市街における 施設位置図

黒字…現在の建物
青字…移築・再現された建物

札幌市街之図
(サッポロシガイノズ)

明治22年(1889)
札幌市中央図書館所蔵の地図
(部分)に加筆

ケプロンの思いが伝わる札幌都心



札幌市北3条広場



サッポロファクトリー


 大通公園
 (写真提供:公益財団法人札幌市公園緑化協会)

近代化はここから始まった

北海道庁赤れんが庁舎(旧開拓使札幌本庁舎付近)から東に向かう北3条通は、19世紀後半の開拓使時代、官営事業の工場が立ち並び、現在では、「開拓使通」とも呼ばれる。

MAPCODE 9 522 335

A 札幌市 開拓使通・北海道庁赤れんが庁舎

 ◆住所 / 中央区北2条東4丁目 ◆TEL / 011-207-5000
 ◆URL / http://www.welcome.city.sapporo.jp/find/culture/former_hokkaido_government_office/?lang=en (英)

開拓使のビール工場

開拓使通の東端にある「サッポロファクトリー」は、1876年、開拓使により創業されたビール工場の場所。現在も、当時の面影を残すレンガづくりの建物が残っている。

MAPCODE 9 524 510

B 札幌市 サッポロファクトリー(旧開拓使麦酒醸造所跡)

 ◆住所 / 中央区北2条東4丁目 ◆TEL / 011-207-5000
 ◆URL / <http://sapporofactory.jp/foreign/english/index.html> (英)

開拓を導いたフレンドシップの像

札幌の中心部を南北に分けるのが大通公園。この公園の10丁目広場には、開拓長官黒田清隆とホールズ・ケプロンの銅像がある。

MAPCODE 9 491 734

C 札幌市 大通公園

 ◆住所 / 中央区大通西1~西12丁目 ◆TEL / 011-251-0438
 ◆URL / <http://www.sapporo-park.or.jp/odori/en/> (英)

クラーク博士の足跡をたどる


 重要文化財札幌農学校第二農場(モデルバーン)
 (写真提供:北海道遺産協議会)


重要文化財札幌農学校演武場(時計台)


 史跡旧島松駅通所 旧島松駅通所にあるクラーク像
 (写真提供:北広島市教育委員会) (写真提供:北広島市教育委員会)

洋式農業の普及に貢献

クラーク博士の構想に基づき、北海道の畜産業の模範農場として、札幌農学校第二農場が発足した。日本最古の洋式農業建築物である模範家畜房(Model Barn)と穀物庫(Corn Barn)など、現存する9棟が、1969年国の重要文化財に指定。

MAPCODE 9 581 487

D 札幌市 重要文化財札幌農学校第二農場(モデルバーン)

 ◆住所 / 北区北18条西8丁目 ◆TEL / 011-706-2658
 ◆URL / <http://www.museum.hokudai.ac.jp/display/dai2noujou.html>

開拓からの時を刻んでいる

札幌農学校の演武場として、初代教頭のクラーク博士の構想に基づき1878年に建設。建物は開拓期のアメリカの木造建築様式を取り入れたもので、中には時計台の歴史を紹介した展示室などがある。

MAPCODE 9 522 206

E 札幌市 重要文化財札幌農学校演武場(時計台)

 ◆住所 / 中央区北1条西2丁目 ◆TEL / 011-231-0838
 ◆URL / <http://sapporoshi-tokeidai.jp/english/> (英) ※英語ガイドあり。

Boys be ambitious! の地

史跡旧島松駅通所は、明治時代の輸送や宿泊、郵便業務などを担った施設で、クラーク博士が北海道を去るとき、札幌農学校の学生に「Boys be ambitious!」と思いを伝えた場所でもある。

MAPCODE 230 304 569

F 北広島市 史跡旧島松駅通所

 ◆住所 / 島松1番地 ◆TEL / 011-373-0188
 ◆URL / <http://www.city.kitahiroshima.hokkaido.jp/kyoiku/detail/00007660.html>

エドウィン・ダンが札幌に残したもの



エドウィン・ダン記念館

ダンの生涯を知る

エドウィン・ダンを記念して、ダンの業績や札幌の開拓の歴史が展示されている。記念館の建物は、ダンが開設した官営牛牧場の事務所を移築したもので、また隣接するエドウィン・ダン記念公園には、(若き日の)ダンの像が設置されている。

MAPCODE 9 252 351

G 札幌市 エドウィン・ダン記念館

 ◆住所 / 南区真駒内泉町1丁目6-1 ◆TEL / 011-581-5064
 ◆URL / http://www.welcome.city.sapporo.jp/find/culture/edwin_dun_memorial_museum/?lang=en (英)

クラーク像



北海道大学構内:クラーク像

北海道大学構内にあるクラーク博士像。多くの観光客が訪れる観光スポットとなっている。

初期北海道開拓の 担い手はサムライだった



当時の屯田兵の姿。開墾のかたわら軍事教練を受けていた。
(写真提供:北海道屯田倶楽部)

西欧列強のアジア進出の中で、国防上からも北海道の開拓は緊急課題でした。そのため、政府は積極的に北海道への移民政策を推し進め、新たに北方警備と開拓とを兼任させる屯田兵という移民制度を設けました。最初に屯田兵で入植した人たちの多くは、農業の経験に乏しい士族(サムライ)でした。その背景には、明治維新で職を失った本州士族への雇用対策の意味合いもありました。屯田兵は、普段は農業に従事し、緊急時には兵隊となるという2つの任務を持っていました。このような屯田兵の入植・開拓は札幌から始まり、徐々に北海道内へ広がっていきました。

屯田兵の歴史や当時の暮らしを知る資料館



史跡琴似屯田兵村兵屋跡

1874年に建てられた兵屋では、開拓当時の様子を感じることができる。



ふるさと館JRY
(写真提供:ふるさと館JRY)

東北海道、湧別に入植した屯田兵の歴史や当時の生活を伝える資料館

MAPCODE 9 546 770

札幌市 史跡琴似屯田兵村兵屋跡

- ◆住所/西區琴似2条5丁目1-12
- ◆TEL/011-621-1988
- ◆URL/http://www.city.sapporo.jp/ncms/shimin/bunkazai/bunkazai/syousai/14k_ktondenheiato.html

MAPCODE 404 550 814

湧別町 町立郷土博物館 ふるさと館JRY(ジェリー)

- ◆住所/北兵村一区588番地
- ◆TEL/01586-2-3000
- ◆URL/http://www.town.yubetsu.lg.jp/st/jry 

開拓時代を知るなら

開拓時代の北海道の
風情を伝える野外博物館

「北海道開拓の村」

「北海道開拓の村」は、北海道開基百年を記念して野幌森林公園内に設置された野外博物館。明治、大正、昭和初期の北海道開拓時代の産業や生活、文化を伝える歴史的建造物を全道各地から移築・復元し保存している。伝統道具づくりやわら細工講習など、開拓当時の文化が体験できるイベントも行われている。

MAPCODE 139 150 422

札幌市 北海道開拓の村

- ◆住所/厚別区厚別町小野幌50-1
- ◆TEL/011-898-2692
- ◆URL/http://www.kaitaku.or.jp/info/info.htm 



旧開拓使札幌本庁舎(再現)



旧札幌停車場(縮小再現)



馬車鉄道&市街地



ニシン番屋旧青山家漁家住宅を望む漁村群

(写真提供:北海道開拓の村)

農村景観

わずか130年で作りあげた
美しい北海道の農村景観

空から見た北海道の農地

外国人観光客が北海道に魅力を感じるものの一つに、美しい北海道の農村景観があります。北海道の農村景観は、水田、畑作、酪農などで構成される多種多様な農業が、本州以南の農村にはない雄大なスケール感のもと展開されていることに特徴付けられています。このような景観が生まれた背景には、明治期以降の屯田兵制度による大胆な拓殖政策などのもと、いち早く先進的な欧米の農業技術を取り入れたことはもちろん、その後も広大な土地のポテンシャルを持って、安定的な食料を供給していこうという、地域のたゆまぬ努力がありました。



北海道の大規模農業の原点ともなった格子状の植民区画

北海道の農村景観で目を引くのは、格子状に整然と区画された大規模な農地。この区画は、開拓使が定めた屯田兵村の区画を基本として、後に全道の統一区画(植民区画)となり広がった。根釧地域やオホーツク地域、十勝地域、上川地域の農業地帯は、この区画がもとになってつくられている。

開陽台展望台からの眺め
(写真提供:中標津町)

展望台に上ると、根釧地域の格子状になった農業開発の姿を眺めることができる。

MAPCODE 976 104 357

中標津町 開陽台展望館

- ◆住所/俣落2256-17
- ◆TEL/0153-73-4787 (中標津町観光案内所)
- ◆URL/http://www.nakashibetsu.jp/kankou/kankou_jouhou/kaiyoudai



自然地形を生かした農業が作り出した美しい農地景観

外国人観光客に人気の高い美瑛の農村景観は、平野部に開かれた開拓地とは違い、丘陵地を切り開いてつくられた開拓地がその原型となっている。傾斜した地形など明治期の開拓当初は、農地としての条件が悪く手つかずだった土地が、その後、地域の人たちの努力によって今日のような自然と調和した美しい農村景観がつけられた。



美瑛の丘の農地景観

波打つような丘陵地に広がる美しい美瑛の農村景観。美瑛の風景を美しい写真を通して楽しめる写真ギャラリー「拓真館」も必見。

MAPCODE 349 704 272

美瑛町 拓真館

- ◆住所/拓進 ◆TEL/0166-92-3355
- ◆URL/<http://www.biei-hokkaido.jp/en/search/shop/souvenir/000052.html>



石狩平野が米の一大生産地に

日本人の主食とも言える米の栽培は、積雪寒冷地という厳しい気候条件の北海道では思うように進まなかった。しかし、米づくりの夢は消えることはなく、着々と水田面積は増えていった。その中心となったのは石狩平野と上川盆地。原野を開発し、百数十年の歳月で日本有数の米の生産地を作りあげた。

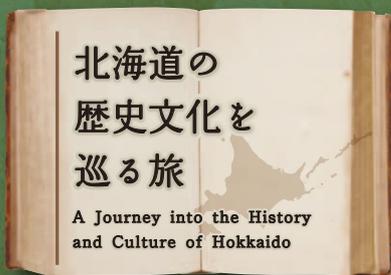
道の駅マオイの丘公園からの眺め
(写真提供:長沼町観光協会)

石狩平野を一望できる展望台があり、そこから水田、畑作、酪農の3つの農業を見ることができる。

MAPCODE 230 416 643

長沼町 道の駅 マオイの丘公園

- ◆住所/東10線南7番地
- ◆TEL/0123-88-2111 (長沼町役場)
- ◆URL/<http://www.nitto-sougyou.co.jp/naganuma/maoikouen.htm>



北の産業遺産

北海道130年の奇跡 ～すべては石炭から始まった



日本が産業化を進める上で必要不可欠だったのが北海道の石炭です。開拓使は、1879年に官営幌内炭鉱を開鉱、その3年後石炭を小樽へ運ぶために幌内鉄道が開通しました。その後も紡績所や製紙所など次々と官営工場が造られ、北海道開拓はまさに国家の一大プロジェクトでした。開鉱から11年、各地で新鉱開発と鉄道の延伸が進みます。その結果、室蘭は小樽と並ぶ石炭の積み出し港となり、同時に石炭をもとに製鉄も始まりました。また、炭鉱開発で内陸部の開拓が進み道路や河川などが整備されました。北海道は、アイヌと少数の和人が住む地から、わずか130年で550万人が住む地域へと変貌をとげました。そこには、炭鉱を軸にした産業発展による近代化の歴史が刻まれています。



産業の源をたどる

幌内炭鉱をはじめとする空知地域の石炭は、日本の近代化から第二次世界大戦後の復興まで、長きにわたりわが国の産業を支えてきた。数多く残る炭鉱遺産を通して、北海道の近代化の歴史を肌で感じることができる。



A そらち炭鉱の記憶マネジメントセンター
(写真提供: NPO法人炭鉱の記憶推進事業団)



B 巻き揚げ機のコンクリート台座
(写真提供: NPO法人炭鉱の記憶推進事業団)

北炭幌内炭鉱立坑

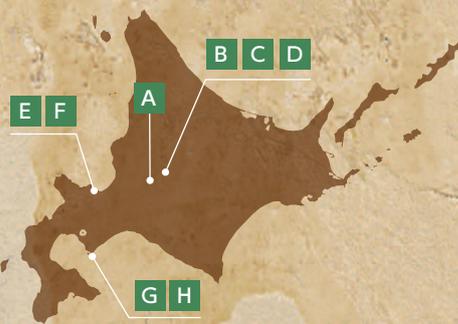
立坑とはケージで地下に人や資材を運ぶための坑道のこと(提供: NPO法人炭鉱の記憶推進事業団)

炭鉱遺産の情報なら… ワンストップインフォメーションセンター

空知の炭鉱遺産に関する情報が詰まった施設。写真や映像、書籍のほか、当時使用された道具類などの展示を通して炭鉱の歴史を紹介する。炭鉱遺産のガイドツアーも行っている。(要予約)

炭鉱の今昔を自分の足で感じる 炭鉱跡地ハイキング

幌内炭鉱の跡地は現在景観公園として整備され、北海道最古の坑口や変電所などの遺構が残る。周囲を山に囲まれ、自然散策や写真撮影も楽しめる。



- A そらち炭鉱の記憶マネジメントセンター
- B 幌内炭鉱景観公園
- C 三笠ジオパーク
- D 三笠トロッコ鉄道
- E 小樽市総合博物館
- F 小樽運河
- G 室蘭工場夜景
- H 旧三菱合資会社室蘭出張所



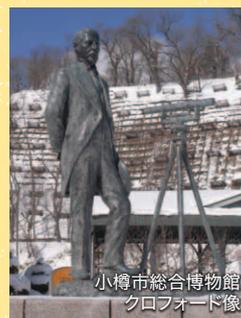
C 地表に垂直に露出した石炭層
(写真提供: 三笠ジオパーク推進協議会) 旧幾春別炭鉱錦立坑櫓
(写真提供: 三笠ジオパーク推進協議会)

黒いダイヤを この目で確かめる

日本のジオパークのなかで唯一、石炭層を見ることができる三笠ジオパーク。野外博物館エリアにある旧幾春別炭鉱錦立坑櫓は、道内に現存する立坑の中で最古。地下で立坑とつながる坑口も見られる。

北海道の鉄道の祖 ジョセフ・クロフォード

北海道の鉄道開発事業に大きく貢献したアメリカ人鉄道技師クロフォード。幌内の石炭を運ぶのに、当初幌内から石狩川まで鉄道を敷き、そこから日本海まで水運を利用する計画だった。しかしクロフォードは幌内から札幌を経由して小樽港まですべて鉄



小樽市総合博物館 クロフォード像

道によって石炭を運ぶべきと主張。クロフォードのプランが採用されていなければ、いまの札幌の発展はなかったかもしれない。

MAPCODE 180 121 174

A 岩見沢市 そらち炭鉱の記憶マネジメントセンター

◆住所/1条西4丁目3 ◆TEL/0126-24-9901 ◆URL/http://www.mc.soratan.com/

MAPCODE 180 199 346

B 三笠市 幌内炭鉱景観公園

◆住所/幌内本沢町 ◆TEL/0126-24-9901 (そらち炭鉱の記憶マネジメントセンター)
◆URL/http://www.sorachi.pref.hokkaido.lg.jp/ts/tss/yama/resource/mi_002.htm

MAPCODE 180 326 814

C 三笠市 三笠ジオパーク

◆TEL/01267-2-3997 (三笠ジオパーク推進協議会) ◆URL/http://www.city.mikasa.hokkaido.jp/geopark/detail/00003758.html

かつて石炭を積み出した道をたどる

幌内鉄道で結ばれた小樽と幌内には、それぞれ鉄道の博物館がある。鉄道の歴史を知るだけでなく、SL乗車体験などのアクティビティがあり、家族で1日楽しめる。



旧幌内線を走るトロッコ
(写真提供:株式会社カラマツトレイン)

緑のトンネルを トロッコで駆け抜ける

廃線となった幌内鉄道2.8kmをトロッコに乗って走ることができる。トロッコの始点近くにある旧三笠駅だけではなく、終着の三笠鉄道記念館にも屋外に多くの車両が展示されており、ここでもSLの乗車体験が可能。(夏期のみ)



蒸気機関車アイアンホース号
(写真提供:小樽市総合博物館)

新幹線もいいけど 蒸気機関車もいい

幌内鉄道の起点、旧手宮駅の構内にあり、北海道の鉄道史に関する展示を行う。アメリカ製の蒸気機関車アイアンホース号に乗って約20分間の構内の旅を楽しむ。(夏期のみ)



小樽運河
(写真提供:一般社団法人小樽観光協会)

小樽運河に沿って歩く、 船に乗る

運河に沿って1920年代に建てられた倉庫群が立ち並ぶ。現在は改装されてレストランやカフェに。船で運河を巡るクルーズもある。

MAPCODE 180 255 566

D 三笠市 三笠トロッコ鉄道 (4月下旬~10月中旬)

◆住所/本町971番地1号 ◆TEL/01267-2-2255 (株カラマツトレイン)
◆URL/http://www.karamatsu-train.co.jp/mikasa/mtr.html

MAPCODE 493 750 078

E 小樽市 小樽市総合博物館

◆住所/手宮1丁目3番6号 ◆TEL/0134-33-2523 ◆URL/https://www.city.otaru.lg.jp/simin/sisetu/museum/ 

MAPCODE 493 690 675

F 小樽市 小樽運河

◆TEL/0134-33-2510(一般社団法人小樽観光協会) ◆URL/http://otaru.gr.jp/welcome_en/ 

世界遺産につながる 北の近代化遺産

2015年5月に世界遺産に登録された「明治日本の産業革命遺産—製鉄・鉄鋼、造船、石炭産業」。北の近代化もこの日本の産業革命と同じ流れにある。北の近代化は、幌内炭鉱開鉱から室蘭の製鉄業が確立するまで、わずか30年で成し遂げられたという点で、この世界遺産に匹敵する価値があるとされている。

受け継がれる産業が人を呼ぶ

開拓期から受け継がれている産業は、今なお歴史を積み重ねながら、時代とともに新たな魅力を生み出している。



鋼島山からの夜景
(写真提供:室蘭観光推進連絡会議)

室蘭工場夜景は 日本7大工場夜景の一つ

明治に始まった製鉄業が今も続く室蘭。湾を囲むように、新日鐵住金、日本製鋼所をはじめ、大小の工場が林立している。夜景バスツアーは人気のプログラム。



旧三菱合資会社室蘭出張所
(写真提供:一般社団法人
むろらん100年建造物保存活用会)

キャンドルが照らす 室蘭の100年

石炭の品質分析や船積みするための手続きを行っていた旧三菱合資会社室蘭出張所。街のシンボルとなっている洋風木造建築は築100年で現役の社屋。内部見学も可能。現在は、キャンドルミュージアムにもなっている。

旧三菱合資会社室蘭出張所 キャンドルミュージアム



宇宙をイメージした手づくりキャンドル

MAPCODE 159 251 355

G 室蘭市 室蘭工場夜景

◆TEL/0143-23-0102 (室蘭観光推進連絡会議)
◆URL/http://muro-kanko.com/yakei/

MAPCODE 159 251 886

H 室蘭市 旧三菱合資会社室蘭出張所

◆住所/緑町2-1 ◆TEL/0143-24-4660 (一般社団法人 むろらん100年建造物保存活用会)
◆URL/http://murooran100.com/

北海道の 歴史文化を 巡る旅

A Journey into the History
and Culture of Hokkaido

北海道の歴史文化を巡る旅 お役立ち情報

GoodDay北海道

北海道の観光情報提供サイト
(北海道各地の観光/イベント情報/旅のプランなど)

◆URL/<http://www.visit-hokkaido.jp> [\(英\)](#)

.....北海道観光振興機構

JNTO認定外国人観光案内所／Tourist Information Offices

外国語対応のスタッフがいる観光案内所リスト
(JNTO認定外国人観光案内所)

◆URL/<http://www.jnto.go.jp/eng/arrange/travel/guide/voffice.php> [\(英\)](#)

.....日本政府観光局(JNTO)

北海道ドライブまるわかりハンドブック

外国人ドライバーの皆様が、安全・安心・快適にドライブ観光を楽しむためのハンドブック
(ルールとマナー/レンタカーの利用/交通ルール/冬のドライブ/トラブル時の対応など)

◆URL/<http://www.hkd.mlit.go.jp/topics/toukei/chousa/h20keikaku/handbook.html> [\(英\)](#)

.....国土交通省 北海道開発局

ドライブ北海道～交通安全の基礎知識～

北海道で安全に車を運転するために。
(交通安全の心がけ/基本的なルールとマナー/冬の運転/交通事故等の対応/日本の主な交通標識と信号など)

◆URL/<http://www.pref.hokkaido.lg.jp/ks/dms/saftydrive/> [\(英\)](#)

.....北海道

北海道の道路情報総合案内サイト～北の道ナビ～

北海道の道路情報
(ドライブマップ/ドライブ情報/道路・峠(吹雪)情報/冬道ドライブガイド/ドライブの距離と時間検索など)

◆URL/<http://northern-road.jp/navi/> [\(英\)](#)

.....(国研)土木研究所 寒地土木研究所

JR北海道

JR総合案内
(時刻表 / 路線図 / 運賃など)

◆URL/<http://www.jrhokkaido.co.jp> [\(英\)](#)

.....北海道旅客鉄道株式会社